

FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)大会報告

開催地：中国 成都市

期間：2023年7月30日～8月7日

【大会結果】

混合団体戦 第5位

男子シングルス第3位 野田統馬（日本体育大学4年）

女子ダブルス第3位 青木もえ／長廻真知（筑波大学3年）

混合ダブルス第3位 滝口友士／植村理央（豊田通商）



【選手選考から試合までの流れ】

令和4年度のインカレの結果を参考に令和4年11月に選手選考会を開催。そこで1位から8位までの順位を決定し、男子15名、女子17名の候補選手を選出。候補選手は、学連主催の全日本総合選手権大会直前合宿、及び日本代表B代表合宿に参加し、令和5年6月に最終メンバー男女6名ずつを選出した。

代表選手は、渡航前日（令和5年7月26日）に千葉県匝瑳市に集合、練習を行い翌日夕刻出発し、現地宿舎には深夜到着となった。競技開始前日の29日に混合団体戦の組み合わせ会議が行われ、日本はグループC（スイス、インド、韓国、ウクライナ）に入り、結果3勝1敗でグループ2位となり決勝トーナメントに駒を進めた。決勝トーナメント1回戦は、世界ランキング上位選手が名を連ねる地元中国との対戦となり、熱烈な中国ファンの声援による完全アウェー状態の中、0対3での敗戦となり第5位となった。個人戦では、男子シングルス、女子シングルス、女子ダブルス、混合ダブルスの4種目が準々決勝に進出。男子シングルの準々決勝の相手は、今大会第1シードで世界ランキング23位の台北選手でしたが見事に2-0で勝利し準決勝に進出。続く準決勝ではマレーシア選手との対戦となり、相手のスピードある攻撃に対応できず0-2で敗退し3位という結果となった。女子シングルスでは、世界ランキング19位の中国選手と対戦し、スピード、ラリー力についていくことができず0-2で敗退し5位入賞という結果であった。女子ダブルスでは、準々決勝でマレーシア選手と対戦し、第1ゲーム先取されるが1-2と逆転勝利し準決勝に進出。準決勝では、世界ランキング14位の中国選手と対戦し、パワーあるショットに圧倒され0-2で敗退し3位となった。混合ダブルスは、準々決勝で香港の選手と対戦し、日本がマッチポイントを掴みながらも追いつかれる危ない展開となったが、何とか逃げきり2-0で勝利し準決勝に進出。準決勝では世界ランキング15位の台北選手との対戦となり、男子選手のパワーに圧倒され0-2で敗退し3位という結果となった。

【大会を振り返って】

目標は、前回大会のメダル5個を上回る事であったが残念ながら銅メダル3個という結果となった。自国開催となった中国は、世界ランキング9位の選手を揃え、他国でも台北が世界ランキング15位～30位の選手が出場しており、かなりレベルの高い大会であった。日本が金メダルを獲得するためには、フィジカル面の強化を軸に、世界で戦う経験値を高めていく環境作りの必要性を感じました。今回の経験を活かし、大学界から世界で活躍する選手の育成・強化を進めていきたいと思えます。

（チームリーダー：平野泰宏）